

～すてきな人・モノ・アートの冊子～

ふじみ野
ART88

アート発見発信
プロジェクト



彫像 小塚工房

Vol.6
2021.3.24



兄 弟

中村裕
なかむらじゅん
チェンバロ奏者

中村淳
なかむらじゅん
フルート奏者

クラシック音楽は、今をつなぎ、
人の心を豊かにする！

ノスタルジックな音色を持つチェンバロ。その楽器を、なんと自らつくり演奏する裕（ゆう）さん、そして多重録音機材を自由自在に使いこなし、新しいカタチでフルート演奏をする淳（じゅん）さん、アートプロジェクト（市主催のオンライン配信）で、その演奏に見入りました。

東京藝術大学院生の裕さんは子どもの頃、毎日8時間以上の練習をしていたものの、辛いと思ったことは一度もなく、ピアノを弾くのが大好きな少年でした。高校2年生の時、チェンバロと出会い、さらにスイスの名門パーゼル音楽院で聴いた音に惹かれ、演奏するようになりました。「音楽は人の心を豊かにする手段。音楽は都会でいえば自然と同じ非日常にあるようなもの。その非日常を日常に取り入れる余裕をもち、素敵だと思ふもの（音楽）をシェアし、他人と繋がりがつくれたら」という言葉からは、周りを思う優しい人柄を感じました。今後クラシック音楽文化の土壌があるドイツに渡り、視野を広げていきたいとのことでした。

東京藝術大学3年生の淳さんは、子どもの時から天気を音にしたり、本に出てくるシーンに音をつけたりする豊かな感性の持ち主でした。中学校でファゴット（木管楽器）を演奏したかったものの指が届かずフルートを選んだというエピソードもあるようですが、中学時代には全日本学生音楽コンクールで3位になり、現在も活躍中です。「クラシックは伝統芸術であり、それをつなぐ今が大切。時代とともに少しずつ変化もしていくなかで、その変化を起こすひとりになりたい。古きを知って、新しいものに活かしていくようなことができたら」と話されていました。将来はオーケストラや、違うジャンルの人達とのコンサートをプロデュースしてみたいとのことでした。

お二人とも地元の人達にミニ演奏会をしたり、音楽を教えたりしているそうで、地域の絆を大切にされています。若く素晴らしい才能をもち、既存のものを大切にしながら新しいカタチをつくっていく、中村兄弟のますますの活躍を楽しみにしたいと思います。



地元の方が描いた桜の絵が演奏を彩る



中村裕

YouTube 

中村淳



夫婦で歩んだ アートの道

画家
嶋田正之

しまだ まさゆき

七宝作家
嶋田澄子

しまだ すみこ

正之さんは絵画を、澄子さんは七宝焼きの創作活動をされています。

正之さんは、幼少の頃から絵画に興味を持ち、現役時代はテレビ局の美術部に在籍していました。仕事内容はドラマのセットデザイン等多岐に渡り、海外出張なども含め多忙な日々を送られたそうです。

仕事の縁で公募展「創展」の会員と出会い、以後現在に到るまで作品を出品しています。最近のモチーフは「水」。季節によって様々な表情を見せる奥深い表現対象です。

正之さんにとってアートとは？との質問に対し、「アートは私の人生である」と語られました。幼少期から現在に到るまでアートの世界を突き進んできた自負を感じます。

澄子さんは、七宝の体験教室に参加したのをきっかけに、その世界に魅了されました。幾人かの先生の指導を仰いだ後、現在まで独学で七宝の道を歩んできました。元日本工芸正会員でもあります。

七宝作りの工程は複雑です。まずは写生でモチーフのイメージを固めます。その後、形状を決め土台作りを職人に依頼。出来上がった土台に墨で下絵を描き、細い糸状の銀を下絵に沿って形を整え配置します。そこに細かく砕いたガラスに糊を混ぜて表面に置きます。本焼き前に色のテストを繰り返します。希望の色を再現できると判断した後に、ようやく炉に入れて本焼きに移ります。焼いた後は研磨の作業。凹凸がない表面になるように丁寧に磨き上げます。一つの作品を作るのに、2~3ヶ月かかるそうです。

ご夫婦は過去に4回、二人展を開催。ご友人が大勢来訪し、毎回盛会でした。2人はお互いの作品をリスペクトしています。これからも末長く創作活動を続けていくことを願っています。

嶋田正之 作品情報「創展」
<http://www.so-ten.com/>

嶋田澄子 作品情報「ギャラリー・ジャパン」
https://galleryjapan.com/locale/ja_JP/artist/1540/



水の表現が豊かな絵画作品



繊細な色と模様七宝作品



の温もりを伝える雑貨たち

ファールージュウク
fare19

菅原信孝・美恵子

すがはらのぶたか

みえこ



もう少し先かな?あの角を曲がったら見えるかな?と、かわいらしいお店をイメージしながら歩くと、わくわくしました。閑静な住宅街にあるfare19さん。「19」は菅原さんご家族のラッキーナンバーだそうで、「主人も長男も次男も19日生まれなんです」とやさしく微笑みながらお話される美恵子さんが印象的でした。

おしゃれな建物はご家族でリノベーションされたそうで、心地よい空気とともに、温かさを感じます。

菅原さんは、2017年に北九州から息子さんたちの住むふじみ野市へ引っ越してこられました。手作り雑貨のお店は初めての挑戦だったそうですが、「好きなことだからがんばれるし、楽しい。やらなきゃもったいない」と、きらきらした笑顔で話されて、素敵な生き方だなと、とても嬉しい気持ちになりました。

「手の温もりが伝わるような物づくりをしています」

言葉どおり、信孝さんの革物、美恵子さんの布物がやさしい表情で迎えてくれました。温もりと同時になつかしさを感じ、幸せな気持ちになります。インテリアも大好きだそうで、壁や棚、飾りのすべて、見ているだけで楽しくなります。

お店は3年目になり、お客さまとのつながりも増えてきたそうです。楽しそうにお客さまとお話される姿から、人を大切にされていることを感じました。これからますますの広がりが、とても楽しみです。



fare19

HP <https://fare19.jimdo.com>

メール fare1939@yahoo.co.jp



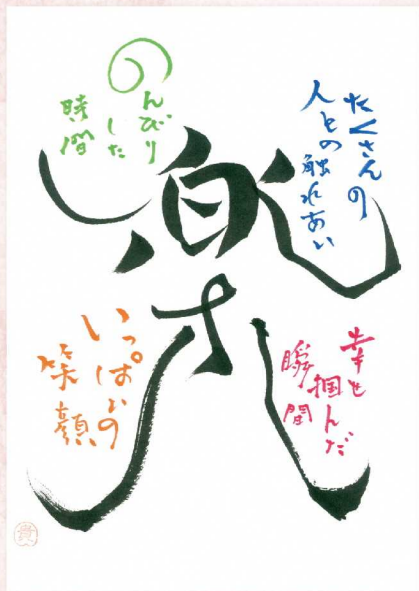
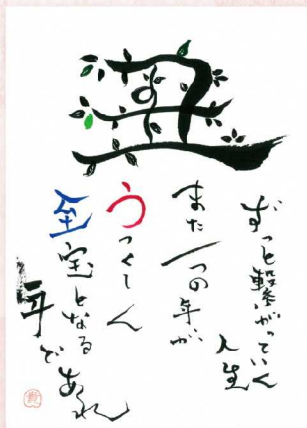


自身を表現し続ける

デザイン書道家 児玉貴子

こだま たかこ

一生、人とつながって生きていきたい。そのため何かを仕事にしたいと強く思った児玉貴子さんが思い出したのは、小学校の6年間習っていたお習字のことでした。筆を使う楽しさ、集中する心地よさ、習字教室の先生を尊敬していたことを。すぐに、書道教室に通い始め、9年後に師範を見事に取得。しかし、中国発祥の書には距離を感じていたようで、その想いが貴子さんを、もっと身近に感じられる独自の作品制作に駆り立てました。言葉も自ら考え、筆文字は型どおり



の書体から飛び出し、紙面を自由に駆け巡る。

「絵は独学で…」と恥ずかしそうに語られましたが、どれも言葉にぴったりで、いわゆるセンスがある事を誰もが疑わないでしょう。

やがて、フクトピアで個展を開催。すると、習いたいとの問い合わせが相次ぎ、教室を開くこととなりました。『人』が大好きで、どんな人の人生も愛おしく、生徒一人ひとりに寄り添う。そんな児玉貴子さんの教室では、みなさんの表現豊かな作品と笑顔が生まれています。

児玉貴子さんにとって『デザイン書道』は人とつながるための大切なツールとのこと。自身の芯をしっかりと持ち、自らを表現することで人とつながる。そんな生き方を見事にデザインされています。『デザイン書道』という道を児玉貴子さんと一緒に楽しく歩いて行く。そんな人がますます増えていきそうです。

児玉貴子さんの『デザイン書道教室』は、フクトピアで開催されています。見学や体験もできます。直接フクトピアへお問い合わせください。

ふじみ野市市民交流プラザ フクトピア
TEL 049-264-7971
<https://www.fujimino-fukutopia.com/>



裏打ちされた伝統技術から未来へ

表具師 戸澤利雄

とびわとしお



戸澤利雄さん。菱田春草「黒猫」の複製画を表具に仕立てました。

ひょうべし
表具師という職業を知っていますか？画（絵）
または書（しよ）に布や紙を張ることによって、掛け軸（かけじく）
巻物（まきもの）、屏風（びょうぶ）や襖（ふすま）などに仕立てる職人です。

ふじみ野市在住の戸澤利雄さんは、国内屈指の表具店にて修業をしたのち、ふじみ野市で60年以上にわたって表具師をされています。技術を競う大会でグランプリを受賞したこともある日本屈指の名人です。

「表具は衣。衣が一番大切で衣を着せることによって、作品がよりよいものとなる」と戸澤さん。依頼を受けるときは、作品にどのような衣装を着せていくかは原則としてすべて戸澤さんのお任せにしてもらいます。必ず満足してもらえるそうです。

「一番大切にされていることは何ですか？」とお聞きしたところ「保存」という答えが返ってきました。表具の出来栄で作品のもちが変わるとのこと。適切に手掛ければ50年も100年も作品の美しさが保たれるそうです。

現在はインテリア会社の経営から引退し、ご自身は伝統の枠を飛び出した新しい独自の技法で作品づくりに取り組んでいます。表具の技術は和紙を利用した肉筆の作品に適用されるものなのですが、洋紙や印刷されたポスターなどにも衣を

着せて美しい表具に仕立てます。伝統的な文様が描かれた布（裂）の代わりにシルクスクarfを作品の回りにあしらったり、掛け軸を入れるために保護ガラスのついた大型額縁を自ら制作したり、自由自在です。和室がない家でも楽しみやすい未来の表具が誕生しそうでわくわくしました。

今後は、自身の制作した表具を展示する美術館の開設を検討しているそうです。



作品にしわやたるみができないように裏から別の和紙を貼る「裏打ち」という技法を実演してもらいました。水で薄めたノリで作品の後ろに和紙をピッタリと貼っていきます。裏打ちはすべての表具技術の基本で1週間程度乾燥させます。

工房 ギャラリー「街かど」

ふじみ野市大原1-5-6 TEL 049-261-2241

～ 伝統に吹く新たな風～

小塚工房 小塚 友彦

こづか ともひこ



日本人なら誰でも知っている仏像。しかし、宗教的な観点以外から、その仏像に思いを馳せたことがある人はどれくらいいるのでしょうか？

仏師小塚友彦さん、^{きりかね}截金・彩色師小塚桃恵さんご夫妻の営まれる小塚工房は、市内の閑静な住宅街にあります。

友彦さんは1984年生まれ。世の中に漫画やアニメ、ゲームなどが溢れた時代に育ちました。伝統的な技法を身につけ、作製された当時と変わらないクオリティの仏像修復など、数百年離れた時代の文化をつないでゆくということでの活躍。そして、ご自身が育った時代的なエッセンスを取り入れながら、様々なチャレンジをされている新しい時代の仏師です。ニコニコ動画でのライブ彫刻や、HIPHOPイベントの中で仏像を彫るなど、今まで崇敬の対象であった仏像のイメージを次々と塗り替えていきました。

しかし、ご本人の印象は、爽やかな中にも凛とした職人の佇まいがあり、修復の仕事をする時の緻密な作業について語られる言葉は、伝統という流れの中に身を置いている人の真摯なものを感じました。

平年から鎌倉へと激動する時代の中に、仏像の



世界に新風を吹き込んだ運慶という天才仏師がいました。今、その時代に起きたことと同じように、私たちは仏師小塚友彦がこの混沌とした世の中に、新たな仏像彫刻の型という風を吹き込む瞬間に立会っているのかもしれません。

(奥様の截金・彩色師の小塚桃恵さんはART88次号で紹介予定です。)

小塚工房

ふじみ野市緑ヶ丘2-14-20

TEL 080-1466-1265 (平日9:00~18:00)

メール kozukakoubou048@gmail.com

<https://kozuka-kobo.themedia.jp/>

HP



YouTube



～ふじみ野ART88 (発見・発信) 私たちが目指すもの～

世の中の価値観が、日々目まぐるしく変わってゆくこの時代。気候変動による自然災害や、不安定な世界経済。目に映る世界は良くない方向に向かっていくようにも思えます。しかし、意識のベクトルを変えて、もう一度世界を見てみると、様々な分野で多くの人々が活躍していることに気づきます。

ひとりとして同じ人がいないこの世界、そこで各人が表現するものや出来事は、ひとつとして同じものはありません。そしてこの世界は、その唯一である私たち一人ひとりが集まって出来ているものです。

私たちは、既成のアートという概念やジャンルにとらわれることなく、人の存在によって表現され繋がりを生み出してゆくものをアートと位置

づけ、ふじみ野市内のクリエイターを発見し、その情報を発信してゆきたいと考えています。既成概念のような固定されたものではなく、変化のある流動的な生きた関係性こそが、お互いの心に新しいものを生み出し、発展してゆくのではないのでしょうか。

皆さまが見つけたふじみ野市内のアートに関する情報も共有し、私たちも一緒に新しいものを作り出していきたいと思っています。見たものや感じたことに関するご意見をいただけると嬉しいです。

このART88という冊子が新たな繋がりなきっかけとなり、多様性に満ちたふじみ野市全体が一つの美しいアートになることを私たちは願っています。

スタッフ / 井上芳枝・白村さおり・尾澤景子・篠島幹昌・染川広行・寺内みか (50音順)
このプロジェクトは上記6名の公募スタッフにより企画・取材及び編集を行いました。



ART88のバックナンバーは右記QRコードリンク先よりご覧頂けます。



アートプロジェクト&アートフェスタ動画配信!

アートプロジェクトとして様々なジャンルのアーティストの動画をYouTubeで配信しています。また、今年度はオンラインで開催したアートフェスタの動画も視聴することができますので、是非ご覧ください。



発行 / ふじみ野市文化・スポーツ振興課
編集 / ART88 プロジェクトスタッフ
356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1
TEL.049-262-8124
E-mail bunka@city.fujimino.saitama.jp
紙面デザイン/ライブプリント info@liveprint.jp